神田駅東連合町会
各町会マップ

安全・安心のまち　千代田
いつまでも住みつづけたいまち　千代田

あなたのお住まいの地域を管轄する
千代田区の出張所は･･･

和泉橋出張所です！

住所 〒101-0025 神田佐久間町一丁目11番地7
電話 03-3253-4931

町会区域住所
① 鍛冶町一丁目
② 鍛冶町二丁目
③ 神田西福田町、神田美倉町
④ 神田北乗物町
⑤ 神田紺屋町 1～25 番地
⑥ 神田紺屋町 26~48 番地
⑦ 神田富山町
⑧ 神田東松下町
⑨ 神田須田町二丁目

千代田区役所ホームページ
和泉橋出張所地域

神田駅東連合町会
各町会の紹介

安全・安心のまち　千代田
いつまでも住みつづけたいまち　千代田

町会名／名所等	歴史	
①鍛冶町一丁目町会 〈名所〉 ●豊川稲荷	鍛冶町という町名は、江戸時代初期、幕府お抱えの鍛冶方棟梁だった高井伊織がこの地を拝領して屋敷を構えたことに由来するといわれています。また、文政７年の「江戸買物独案内（えどかいものひとりあんない）」には、刃物や釘などを扱う卸売業者が多数いたことが記されています。いまでも、金物を扱う会社が多いように鍛冶町は、江戸時代から金属製品を提供し、武士や庶民の生活を支え続けてきた町でした。なお、町内には、鍛冶町一丁目と中央区の境を流れていた龍閑川に架かる今川橋があり、今川焼の発祥地ともいわれています。	
②鍛冶町二丁目町会 〈名所〉 ●徳力本店 （享保 12 年、徳川幕府の命により金銀の改鋳事業を開始）	町名の由来は鍛冶町一丁目と同様ですが、鍛冶町二丁目界隈は金物の中でも、刀や薙刀といった打物を扱う業者が多かったようです。また、「江戸買物独案内」によると、江戸後期には下駄問屋や書物問屋、薬の小売業者など、バラエティに富んだ店が集まっていました。なお、戦後の復興期には、家庭金物や建築金物、銅・真鍮・鉄の販売店が軒を並べ、神田駅南口から東神田まで続く「神田金物通り」は大変賑わっていました。さらに、明治後期の地図には、上白壁町や下白壁町の町名が見え、左官職人が多く住んでいました。	
③昭和町会	昭和町会は、神田美倉町と神田西福田町を区域としています。江戸時代、龍閑川北側のこの地域は、蔵地と町会所謂負地でしたが、明治２年、神田佐柄木町（さえきちょう）蔵地、本白銀町町会所屋敷（ほんしろがねちょうちょうかいしょやしき）蔵地、神田紺屋町二丁目横丁蔵地の３つの蔵地が合併して美倉町となりました。一方、町会所請負地は西福田町と改められ、昭和 22 年に神田区と麹町区が合併し、千代田区となった後の昭和 29 年３月、神田美倉町と神田西福田町の２町会を合わせて昭和町会が誕生しました。	
④北乗物町町会	北乗物町は、このあたりに駕籠職人や駕籠をかつぐ人、馬具職人が住んでいたことに由来するという説があります。町の西側には葛籠や竹細工の職人が集まり住んでいた亀井町があり、江戸市中でも「亀井の駕籠」は名物にあげられていました。町名の由来となった駕籠には２種類あり、一般的なものは「駕籠」、高級なものは「乗物」と呼ばれ、だれがどの駕籠・乗物に乗れるかが決まっていました。また、近くには中央区の小伝馬町や大伝馬町、馬喰町といった馬を使った運送業に由来する町もあります。	
⑤紺屋町南町会	この界隈は、徳川家康から関東一円の藍の買い付けを許されていた紺屋頭土屋五郎右衛門の支配地でした。そのため、五郎右衛門の配下の染物職人が大勢住んでおり、いつしか紺屋町と呼ばれるようになりました。江戸を代表する藍染の浴衣や手拭いの大半は紺屋町一帯で染められ、「その年の流行は紺屋町に行けばわかる」と言われたほどで、いわば流行の発信地でした。ところで、「場違い」という言葉がありますが、これは紺屋町以外のところで染める浴衣や手拭い染めのことを、江戸の人がそう呼んだことに由来します。	
⑥紺屋町北部町会	町名の由来は、紺屋町南町会で述べたとおりですが、明治維新以降も紺屋町には多くの染物屋が集まっていたようです。明治後半の東京を描いた「風俗画報」には、藍や紺の手染めの布があたかも万国旗のように風に翻り、町を彩っていた様子が掲載されています。ところで、紺屋町には北乗物町を挟んで南北に紺屋町があります。この不可思議な町は、享保４年、幕府が北乗物町の南側だけに集まっていた紺屋町の一部を火除地とするため、北乗物町の北部に移したことによります。	
⑦神田富山町会	正徳３年、芝増上寺の門前にあった芝富山町が火除地となり、その代地としてこの地が与えられ、神田富山町が誕生しました。この町には日常生活の品々を商う人々が住んでいたようですが、慶応年間の「江戸食物独案内（えどたべものひとりあんない）」には、このあたりに醤油や醤油諸味（もろみ）を扱う店があったと記されています。野田や銚子でつくられた醤油などは、神田川の佐久間河岸で荷揚げされ、和泉橋を渡って町内の三河屋（醤油）や伊勢屋（諸味）に運ばれたものと思われます。	
⑧東松下町々会 〈名所〉 ●玄武館跡	江戸時代のこの界隈は、商人や職人の家と武家屋敷が混在する場所であり、旧千桜小学校あたりには北辰一刀流の開祖千葉周作の剣術道場「玄武館」がありました。また、その隣には儒者東条一堂の「瑤池塾」もあり、幕末のこのあたりは坂本竜馬や清川八郎、山岡鉄舟など、若き志士たちが飛躍へ向け文武を練った場所でした。その後、明治２年、周辺の複数の町が合併して東松下町となりましたが、現在の内神田のあたりに「松下町」という町名があったため、そこと区別するために「東」を付けたといわれています。	
⑨神田須田町二丁目町会 〈名所〉 ●柳森神社	神田須田町二丁目は、関東大震災後に誕生しましたが、町内には室町時代、太田道灌公が江戸城の鬼門除けとして周辺一帯に柳を植え、京都の伏見稲荷を勧請したことに由来する柳森神社があります。当町会は、町内の柳森神社だけでなく、神田神社、下谷神社の３社の氏子町会であり、隔年の５月には柳森神社前に神酒所が設けられ、住民一丸となって伝統ある神田の祭を盛り上げています。なお、終戦後は、ラシャを中心とした繊維業者が集中し、日本一といわれるほどの繁盛ぶりでした。	